

第3回神経精神分析ワークショップ 「神経精神分析・臨床への展望」

昨夏第 14 回を迎えた国際神経精神分析学会は南アフリカ・ケープタウンにて開催され、「神経精神分析の臨床」というテーマで多彩な議論が展開されました。私たちのワークショップも第 3 回目となり、今回は「臨床」を中心的な話題として取り上げます。

これまでおよそ 15 年間の神経精神分析ムーブメントの高まりの中、その実践がすでに様々な臨床現場に根を下ろしていることは疑いようありません。たとえば、従来アプローチが難しいとされてきた脳損傷や認知症の事例に対して、精神分析的な方法により内的世界に接近する可能性についての報告がケープタウンでも相次ぎました。考えてみれば、フロイトの失語論からすでに 120 年以上、ルリアの脳損傷研究を経て、ようやく遂に、という感慨を持たないでもありません。もっとも、これまでの私たちの議論が臨床経験から離れたことはなかったわけで、その意味で今回改めて臨床を主題とするこの意義が問い直されるべきなのでしょう。

脳損傷の事例報告からしばしば私たちが感銘を受けることは、損傷した脳という制約に対する精神活動の「自由さ」そのものであったりします。そこから翻って考えられるべきなのは、私たちの精神活動、およびそれへの「分析」が、さしあたりは健常であるらしい(?)私たちの脳という制約あるいはその可塑性からどの程度まで自由なのかという問いであり、さらにまた、常に「より健康であること」を希求するように見える現在のシステムにおいて、神経精神分析的な臨床を提唱する意義は何かという問題であるように思われます。

さて今回もこれまでのワークショップと同様、さまざまな職種や学派のパネリストが集い、比較的少人数のインフォーマルな雰囲気の中で自由に意見交換ができればと考えております。こころの臨床と神経科学の動向にも興味をお持ちの方はどなたでも、また臨床家・研究者はもちろん、学部・大学院生の皆様のご参加も心よりお待ちしております。

プログラム

1. 「心的外傷とその帰結－神経精神分析の観点から」 16:00－16:30
久保田泰考 滋賀大学保健管理センター准教授
2. 「神経精神分析の臨床研究」 16:30－17:00
平尾和之 京都文教大学臨床心理学部准教授
3. 「Kohut のナルシズム臨床観に繋がる ANPS データ」 17:00－17:30
成田慶一 京都大学医学部附属病院 臨床研究総合センター 特定研究員
4. 「パンクセップの感情科学の視点に基づく、緩和医療におけるオピオイドの意義の見直し」
17:30－18:00
岸本寛史 高槻赤十字病院緩和ケア診療科医師
5. 総合討議 18:00－19:00

2014 年 2 月 14 日(金)16:00 ～ 19:00

滋賀大学大津サテライトプラザ

JR大津駅前 日本生命大津ビル 4 階

(JR京都駅より9分、大津駅北口下車すぐ)

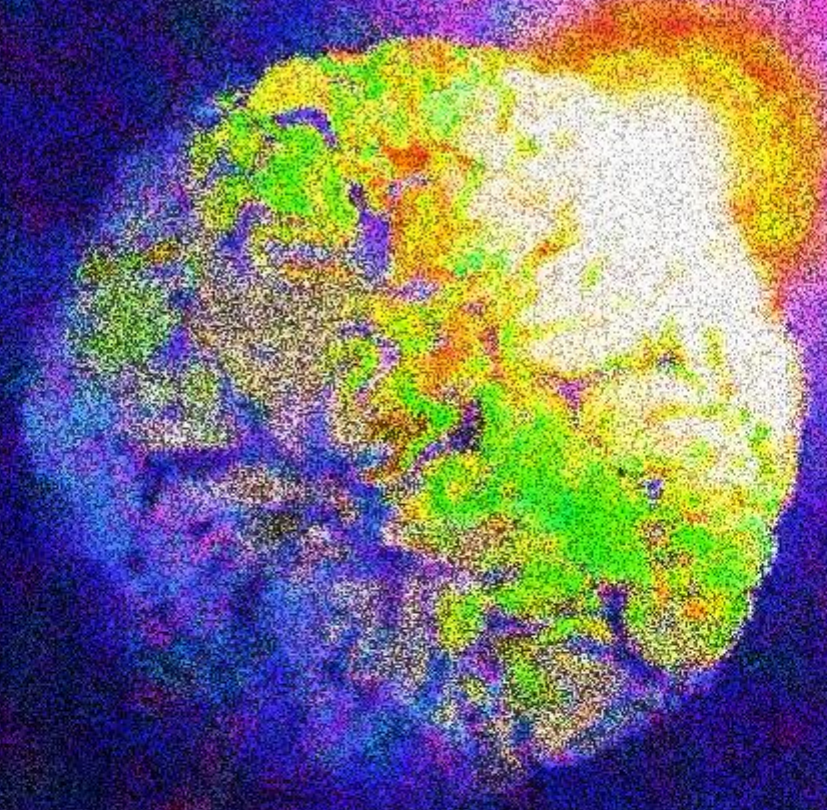
入場無料、事前登録不要(ただし席数に限りあり)

ご登録、お問い合わせは滋賀大学保健管理センターTEL/FAX 0749-27-1024まで

平成 25 年度滋賀大学健康セミナー
第 3 回神経精神分析ワークショップ
平成 25 年度財団法人 阪本精神病理学研究所医学研究助成

神経精神分析

- 臨床への展望



2014 年 2 月 14 日(金)16:00 ~ 19:00
滋賀大学大津サテライトプラザ
JR大津駅前 日本生命大津ビル 4 階

入場無料、事前登録不要

お問い合わせは、滋賀大学保健管理センターTEL/FAX 0749-27-1024まで